

(様式1-2)新規評価シート

事業名	河川		路河川名等	(一)大清水川			
事業毎の通番	1	市町村名	南箕輪村	箇所名(ふりがな)	神子柴(みこしば)		
事業目的	(一)大清水川は、蔵鹿山に源流を有し、南箕輪村を流下し、(一)天竜川に合流する一級河川である。 一般県道南箕輪沢渡線の暗渠部の河川断面が狭小(降雨確率1年未満)であり、平成24年7月20日の豪雨では溢水し、令和3年8月豪雨でも県道上流部の水位上昇が生じている。 令和4年度に一般県道南箕輪沢渡線の道路拡幅事業が事業化されたことを受け、道路事業と合わせて早急に河川改修を実施し、地域住民の安全・安心を確保する必要がある。						
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	河川法			
関連する事業、計画等	○天竜川水系河川整備基本方針(平成20年7月 国土交通省中部地方整備局) ○天竜川水系伊那圏域河川整備計画(平成24年11月策定 令和5年度変更予定) ○防災・安全交付金(道路)事業(一般県道南箕輪沢渡線)						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	○ 氾濫区域内の人家戸数 : 4戸 ○ 想定氾濫区域内の公共施設 : 主要道路、生活道路						
着手年度	2023年度(令和5年)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2027年度(令和9年)	費用対効果	1.7		国庫	その他	
全体事業内容(主な工種)	河川改修 L=0.23km			300,000	150,000	0 135,000 15,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	浸水戸数の解消 ボトルネック箇所の解消					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域の活性化					
評価の視点	必要性	○ 氾濫区域内の人家戸数 : 4戸 ○ 想定氾濫区域内の公共施設 : 6施設 ● 主要道路(県道)、● 生活道路(市道1路線、村道4路線) ○ 浸水想定区域内の農地面積 : 0.3ha ○ 要配慮者利用施設:重要施設(グループホームつれづれ草)				評価	B
	重要性	○ 過去の浸水履歴 : H24.7.20豪雨(床下浸水1戸、田畑浸水)、R3.8.15豪雨(県道上流の水位上昇) ○ 交通遮断による地域経済への影響 : 県道 ○ 重要水防区域 : あり(双葉町飯田線上下流)				評価	A
	効率性	○ 費用対効果(B/C) : 1.67 ○ 事業期間 : 5年間 ○ 工法の検討 : 護岸構造、県道横断部の詳細設計済				評価	B
	緊急性	○ 近年の自然災害の発生状況 : なし ○ 近年の水防回数 : 令和3年8月・9月豪雨 ○ 現況流下能力 : 10%程度 ○ 護岸等河川施設の種類 : 掘込構造だが護岸老朽化				評価	B
	計画熟度	○ 事業情報の共有 : 全体計画、詳細計画等地元説明会実施済 ○ 地域の取り組み : 積極的な取り組みあり(大清水川治水砂防促進同盟会、伊那市御園区、南箕輪村神子柴区) ○ 地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○ 住民との協働 : 住民独自の取組がある(河川愛護活動) ○ PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 課題整理表 整理表番号 4-1-4				評価	A
所管課の意見	平成24年7月豪雨により浸水被害が生じた他、局地的な豪雨により幾度も県道上流部の水位上昇が生じることや、道路拡幅事業と一体的な整備が必要であり、事業着手が妥当と判断する。			採択状況	総合評価		
政策評価室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

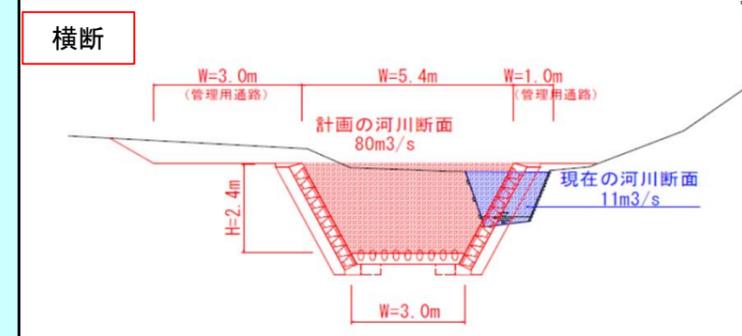
位置図



平面図



横断





H24.7.20豪雨による溢水状況

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	・(一)大清水川は、平成24年7月の豪雨により浸水被害が生じた他、局地的な豪雨により幾度も県道上流部の水位上昇に見舞われた経過があることから、地域住民から県道下の暗渠部の改修に係る強い要望がある。 ・ボトルネックである暗渠部を含む県道の道路拡幅計画が事業化したことから、この機に計画規模への改修が望まれている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	・豪雨時に幾度も暗渠部上流の水位上昇が生じ、溢水の不安が高まっていることから、伊那市及び南箕輪村から強い要望がある。
③事業説明等の経緯	・全体計画、詳細設計について地元説明会を実施し、了解が得られている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	・平成20年7月に天竜川水系河川整備基本方針が策定(国土交通省中部地方整備局) ・平成24年11月に天竜川水系伊那圏域河川整備計画が策定(長野県) ・令和4年度から防災・安全交付金(道路)事業(一)南箕輪沢渡線 南箕輪村御子柴 実施中
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	・河川の状態を十分把握した上で、環境に配慮した工法を選定する。 ・気候変動により発生確率が高まる水災害を防ぐため、ハード対策、ソフト対策の両面から対策を推進する。
⑥人口減少、少子化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	・本事業により、地域の治水安全度が向上し、地域の活性化が期待される。 ・水災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。
⑦その他	

事業周辺環境

事後・再評価からのフィードバック	・河川環境や維持管理に視点をおいた事業計画を検討していく。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 137° 58' 07" 4 東経:E 35° 51' 23" 1
------------------	-------------------------------	-------------	---

(様式1-2)新規評価シート

建設部 河川課

事業名		河川		路河川名等		(一)大石川				
事業毎の通番		2	市町村名	佐久穂町	箇所名(ふりがな)	清水町(しみずちょう)				
事業概要	事業目的	(一)大石川は、八千穂高原に源流を有する清流で、佐久穂町を東に流下し、(一)千曲川に合流する一級河川である。 大石川の近接地には、佐久穂町により『(仮称)道の駅「八千穂高原IC」』の整備(令和6年度開業予定)が進められており、かわまちづくり事業において大石川と千曲川の水辺整備を一体的に行うことで、河川空間と道の駅による新たな地域の魅力創出を図るものである。								
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-5 市街地の活性化と快適な生活空間の創造 (官民施設の有効活用)		事業実施の根拠法令等		河川法				
	関連する事業、計画等	○ 信濃川水系河川整備基本方針(平成20年6月 国土交通省北陸地方整備局) ○ 信濃川水系南佐久圏域河川整備計画(令和5年度変更予定) ○ 社会資本整備総合交付金(道の駅)事業(国)299号 佐久穂町(仮称)道の駅「八千穂高原IC」(佐久穂町)								
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	○ 想定氾濫区域内の公共施設：(仮称)道の駅「八千穂高原IC」、国道299号、水道水源ほか								
	着手年度	2023年度(令和5年)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	完成年度(見込み)	2027年度(令和9年)	費用対効果	7.3	国庫	0	県債	540,000	一般財源	60,000
	全体事業内容(主な工種)	河川改修 L=1.0km			900,000	300,000	0	540,000	60,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	・(仮称)道の駅「八千穂高原IC」整備関連事業 ・かわまちづくり関連事業								
	間接的効果(定量的・定性的)	・地域の活性化、地域間交流拠点の創出								
評価の視点	必要性	○ 沿線のにぎわいづくり：かわまちづくり計画、社会資本整備総合交付金(道路)事業(道の駅) ○ 地域の特性：観光に資する施設(道の駅) ○ 要配慮者利用施設の有無：なし							評価	B
	重要性	○ 過去の浸水履歴：R1.10.11令和元年東日本台風(床上浸水1戸、床下浸水1戸) ○ 交通遮断による地域経済への影響：(仮称)道の駅「八千穂高原IC」、国道299号 ○ 重要水防区域：2箇所							評価	A
	効率性	○ 事業期間：5年間 ○ 工法の検討：護岸構造の比較検討							評価	A
	緊急性	○ 近年の自然災害の発生状況：近年5年以内に近傍で自然災害あり(R1.10.11令和元年東日本台風) ○ 近年の水防回数：1回(R1.10.11) ○ 現況流下能力：最小70% ○ 護岸等河川施設の種類：築堤(一部堀込区間有)							評価	B
	計画熟度	○ 事業情報の共有：関係者以外にも周知 ○ 地域の取り組み：積極的な取組みがある(佐久穂町かわまちづくり協議会、市町村要望) ○ 地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている(佐久穂町かわまちづくり協議会) ○ 住民との協働：住民独自の取組がある(佐久穂町かわまちづくり協議会) ○ PDCA 事後・再評価からのフィードバック：事後評価 課題整理表 整理表番号:4-1-4							評価	A
	所管課の意見	佐久穂町の道の駅整備やかわまちづくり計画との関連性が高く、一体的な整備の実施により、道の駅整備を契機にした水辺空間の創出やまちづくり活動との連携を強化し、魅力ある空間づくりにつながることから、早期の整備が必要であり、事業着手が妥当と判断する。						採択状況	○	総合評価
政策評価室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。									
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手					

位置図



大石川

平面図



事業区間 L=600m

道の駅予定地

事業区間 L=400m

愛宕公園

【事業内容】
親水護岸及び階段工、帯工、管理用道路

大石川 イメージパース

千曲川 イメージパース

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	・佐久穂町では、河畔に近い「道の駅」の整備を計画しており、その中で子育て環境の充実に合わせた取り組みを検討している。道の駅整備箇所には大石川が近接していることから、道の駅から川へ展開できる空間づくりと、千曲川に整備されている愛宕公園を活用した水辺空間の活用を検討しており、水遊び場への動線を確保できる親水護岸等の河川環境整備が求められている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	・大石川及び千曲川の環境整備について、町から要望あり ・佐久穂町では、地域住民が参加するワークショップ活動(フューチャーデザイン)を実施(R4.1.16、R4.1.30)し、道の駅整備に併せた大石川や千曲川を含めた周辺整備の方針「かわまちづくり計画」を策定(R4.8.9)
③事業説明等の経緯	・「かわまちづくり計画」ワークショップ(R4.1) ・道の駅基本計画(案)(パフコメ R3.3)
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	・平成20年6月に信濃川水系河川整備基本方針が策定(国土交通省北陸地方整備局) ・平成26年1月に信濃川水系河川整備計画が策定(国土交通省北陸地方整備局) ・平成30年4月に中部横断自動車道(佐久南IC~八千穂高原IC間)が開通(国土交通省) ・社会資本整備総合交付金(道の駅)事業(国)299号 佐久穂町(仮称)道の駅「八千穂高原IC」(佐久穂町)
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	・河川の状態を十分把握した上で、環境に配慮した工法を選定する。 ・気候変動により発生確率が高まる水災害を防ぐため、ハード対策、ソフト対策の両面から対策を推進する。
⑥人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	・地域の子育て環境の機能強化、地域間交流の活性化などが期待される。 ・地域住民、来訪者がともに憩い、川辺の魅力を満喫しながら交流できる空間づくりに支援
⑦その他	

事後・再評価からのフィードバック	河川環境や維持管理に視点を置いた事業計画を検討していく。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 28' 3" 2 東経:E 36° 7' 44" 3
------------------	------------------------------	-------------	---

(様式1-2)新規評価シート

建設部 河川課

事業名		河川		路河川名等		(一)百々川		
事業毎の通番		3	市町村名	佐久市	箇所名(ふりがな)	桜井(さくらい)		
事業概要	事業目的	(一)百々川は、佐久市桜井地区を流下し、(一)片貝川に合流する一級河川である。 事業計画区間は河道断面が小さく、流下能力を有していない。令和元年東日本台風では桜井地区で河川の増水等に伴う床下浸水被害が発生した。 災害復旧助成事業による桜井遊水地の整備に併せて、一部付け替えを含む河川改修を一体的に実施することにより、桜井地区における浸水被害の解消を図ることを目的としている。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		河川法		
	関連する事業、計画等	○ 信濃川水系河川整備基本方針(平成20年6月 国土交通省北陸地方整備局) ○ 信濃川水系北佐久圏域河川整備計画(令和5年度策定予定) ○ 国補河川災害復旧助成事業 (一)千曲川 佐久市 桜井(桜井遊水地)						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	○ 想定氾濫区域内の人家戸数 : 200戸 ○ 想定氾濫区域内の公共施設 : 中部横断自動車道、市道(7路線)、その他施設						
	着手年度	2023年度(令和5年)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2028年度(令和10年)	費用対効果	1.3	国庫	0	県債	427,500
全体事業内容(主な工種)	河川改修 L=600m			950,000	475,000	0	427,500	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	・浸水戸数の減少 ・桜井遊水地整備関連事業						
	間接的効果(定量的・定性的)	・地域の活性化						
評価の視点	必要性	○ 想定氾濫区域内の人家戸数 : 200戸 ○ 想定氾濫区域内の公共施設 : 8施設 中部横断自動車道、市道(7路線) ○ 想定氾濫区域内の農地面積 : 108ha ○ 要配慮者利用施設の有無 : あり(デイサービスセンターひだまり)					評価	A
	重要性	○ 過去の浸水履歴 : R1.10.11(令和元年東日本台風) (床下浸水 3戸) ○ 交通遮断による地域経済への影響 : 中部横断自動車道(佐久南IC) ○ 重要水防区域 : なし					評価	B
	効率性	○ 費用対効果(B/C) : 1.28 ○ 事業期間 : 6年間 ○ 工法等比較検討 : 護岸構造の比較検討、浸水シミュレーション					評価	A
	緊急性	○ 近年の自然災害の発生状況 : 近年5年以内に近傍で自然災害あり(R1.10 令和元年東日本台風災害) ○ 近年の水防回数 : 1回(R1.10.11) ○ 現況流下能力 : 最小10% ○ 護岸等河川施設の種類 : 掘込護岸(ブロック積み)					評価	A
	計画熟度	○ 事業情報の共有 : 関係者以外にも周知 ○ 地域の取り組み : 積極的な取組みがある(佐久市千曲川水系河川整備促進期同盟会による建設部長要望活動あり) ○ 地域の合意形成 : 合意形成が図られている(桜井地区遊水地計画説明会、地元改修要望あり) ○ 住民との協働 : 住民独自の取組がある(地元自治会による一斉清掃や維持管理活動などの取組) ○ PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後・評価 課題整理表 整理番号:4-1-4					評価	A
	所管課の意見	当該地域は令和元年東日本台風に伴う災害復旧助成事業として遊水地整備が進められており、整備に伴う水路の付け替え等により、百々川への新たな流入が見込まれるが、現況河道断面が小さく、流下能力が不足していることから、早期の整備が必要であり、事業着手が妥当と判断する。					採択状況	○
政策評価室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	位置図	流域概要写真		
	平面図	横断面図		
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成30年に中部横断自動車道が開通し、百々川の下流部ではこれに関連して河川改修が進められた一方で、住宅地が集積する上流部では、十分な流下能力を有しておらず、早期の改修が求められている。		
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	・毎年佐久市千曲川水系河川整備促進期同盟会による建設部長要望活動が実施されている。		
	③事業説明等の経緯	・R2.12.15 第1回住民説明会(地権者対象) ・R3.9.27 第2回住民説明会(地元住民対象) ・R4.2.15 地元地区説明(遊水地区住民説明会) ・R4.2.28 第3回住民説明会(個別説明) ・R4.12.11 出張相談窓口開設(各区公会堂)		
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	・平成20年6月に信濃川水系河川整備基本方針が策定(国土交通省北陸地方整備局) ・平成26年1月に信濃川水系河川整備計画が策定(国土交通省北陸地方整備局) ・平成30年4月に中部横断自動車道が供用開始(国土交通省) ・国補災害復旧助成事業 (一)千曲川 佐久市 桜井(桜井遊水地)		
	⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	・自然環境に配慮した護岸形式を採用するなど、河川の状況を十分把握した上で、環境に配慮した工法を選定する。 ・気候変動により発生確率が高まる水災害を防ぐため、ハード対策を推進する。		
	⑥人口減少、少子化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	・本事業により、地域の治水安全度が向上し、定住化等、地域の活性化が期待される。 ・水災害を防止し、住環境及び避難路等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。		
	⑦その他			
事後・再評価からのフィードバック	・河川環境や維持管理に視点をのいた事業計画を検討していく。		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 26' 54" 3 東経:E 36° 14' 36" 5